

京都市最高峰 火伏せの神 愛宕神社が鎮座する霊山

「愛宕山」 紅葉 Walk

2008. 11. 15.



桂川を渡って京都に入ると 西に愛宕山 東に比叡山が聳える 京のランドマークである
愛宕山は「火」の神さん 全国にある愛宕山神社の本宮でもある



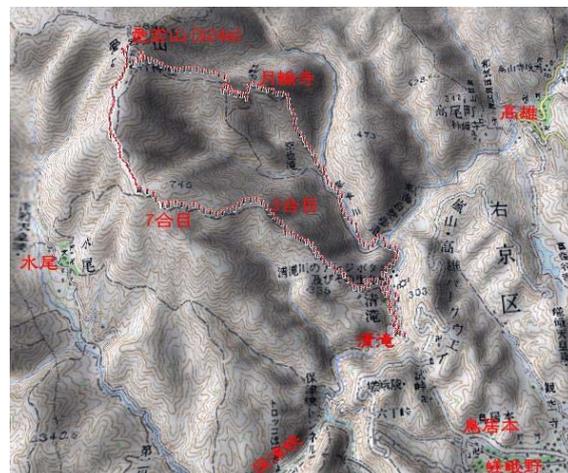
愛宕山山頂にある愛宕神社

2008.11.15.

西から桂川を渡ると京の街の背の山並みの東西の角を占めるひときわ高い山「東端の比叡山と西端の愛宕山」。「京都に来た」と感じる光景である。また、夜 真っ暗な北西の空にぼんっとひとつ灯る愛宕山の明かりは、京都を離れるときの見送り。学生時代の古き思い出。

日本各地の愛宕神社・愛宕山の総本宮で、京都人にとっては「愛宕さん」と愛着を込めて呼ぶとともに昔から頂上にある愛宕神社へ参詣する人の列が絶えない「火伏せ」の神・台所の守り神である。

愛宕山の山裾を溪谷となって流れる保津川・清滝川の四季は素晴らしく、周辺の嵐山・嵯峨野そして清滝・高雄など京の紅葉の名所として、名高く、多くの人たちが訪れる。



清滝から続く愛宕山参詣道 2008. 11. 15.

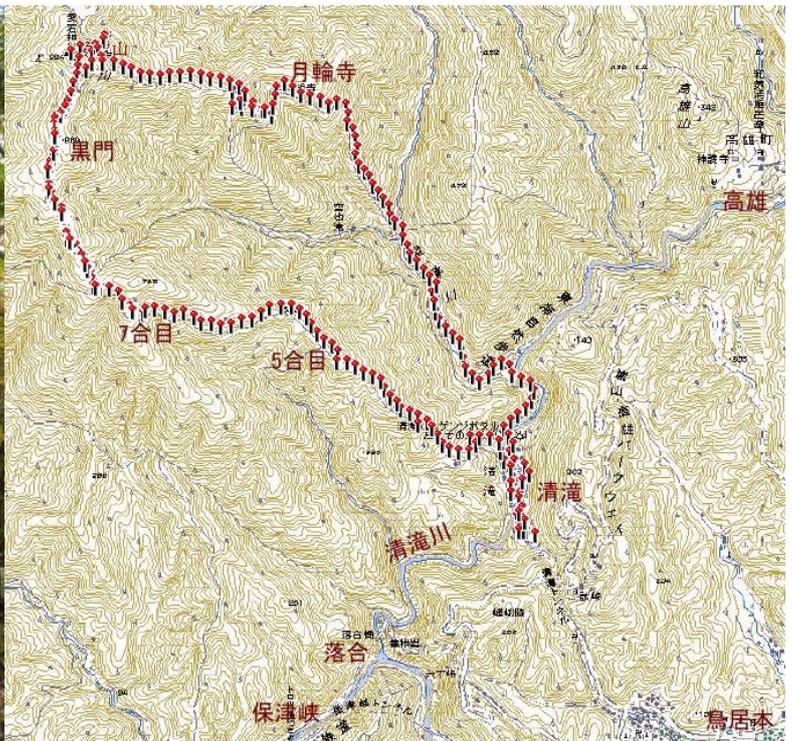
もともと「清滝」「愛宕山」となると山中に分け入り、交通の便が極端に悪くなることもあって、訪れる人も極端に少なくなり、都の喧騒から離れて、四季折々の自然を楽しめる隠れ家的な場所となっている。

しかし、昔は愛宕山の参詣道には人が絶えなかったという。

京都ではポピュラーな山で高さは 924m とさほど高くはないのですが、都を取り囲む西山・北山・東山の最高峰で、たいしたことないと侮るときつい。



「清滝」・「愛宕山」の紅葉 2008.11.15.



愛宕山 walk 行動表 【清滝→表参詣道→頂上・愛宕神社→月輪道→清滝】GPS 記録より

保津川の左岸 嵐山から北へ嵯峨野を抜け、山間の化野・鳥居本から山中へ分け入り、峠を越えると今までの喧騒が嘘のような深山 自然の真っ只中、清滝川の溪谷にへばり付いた小さな集落「清滝」で、ここから愛宕山の頂上まで、延々と良く整備された階段状の参詣道が続く。

一度 愛宕山に登りたいと思いながら、いつでも行けるとの思いもあって、今まで、出かけたことなし。

10月東海道線の車窓からポツンとひとつ夜の愛宕山の「灯り」を久しぶりに見て、愛宕山に登ってないなあ・・・と。

紅葉見物を兼ねて「愛宕山の灯」の場所を確かめに愛宕山に登ろうと・・・。

登山口は愛宕山の四方から登れるのですが、今回は一番ポピュラーで愛宕神社の参詣道が続く南側の清滝から。

1. 清滝から表参詣道を 愛宕山山頂へ

11月15日朝 昔から京都駅から出ている京都バス「清滝」行に乗ろうと紅葉見物に出かける人たちでごった返す京都駅に降り立つ。京都の交通事情もすっかり変わって 雑踏の中 バス乗り場を探すのに一苦労。紅葉シーズンなので、「清滝」行も混んでいるだろうと思いましたが、ほかのバス乗り場には長蛇の列なのにほとんど人なし。京都の紅葉名所も随分変わったものだ。土曜日の休日 ゆっくりと京都の町並みを眺めながら西へ 四条大宮から太秦を抜けて嵐山の土手へ約 30 分かけて出る。ちらちらと愛宕山が見えるのですが、家並みや電線に阻まれ、全体が中々見えない。



嵐山・嵯峨野の雑踏からトンネルを抜けて「清滝」に入ると静寂の中 真っ赤な紅葉が出迎えてくれる 2008.11.15.

嵐山・渡月橋そして天竜寺界限は紅葉見物の人並みで雑踏。人並みをすりぬけながら、大覚寺を抜けるとやっと静かな山里嵯峨野の風景。ここまでたっぷり1時間。

静かな山道にかかり、トンネルを抜けて「清滝」に入ると静寂の中 真っ赤な紅葉が出迎えてくれる。真っ赤に紅葉した山の中腹が清滝の駐車場。清滝は谷筋なので、平地は少なく、駐車できるスペースはこの車 20台分程度のバスターミナル兼駐車場のここだけである。木々の間から下の谷間を紅葉をかいくぐって清滝川が流れ下るのが見える。

全山紅葉 見渡す限り真っ赤な谷筋 狭い溪谷を流れる清滝川そして、清滝の小さな家並み。ほんの 10 分前の嵐山の喧騒からは想像できぬ静かな秋景色が広がっている。バス道はここで終点。

ここから奥は車一台がやっとの道が清滝川沿いに上流の高雄・周山街道へつながるのみ。

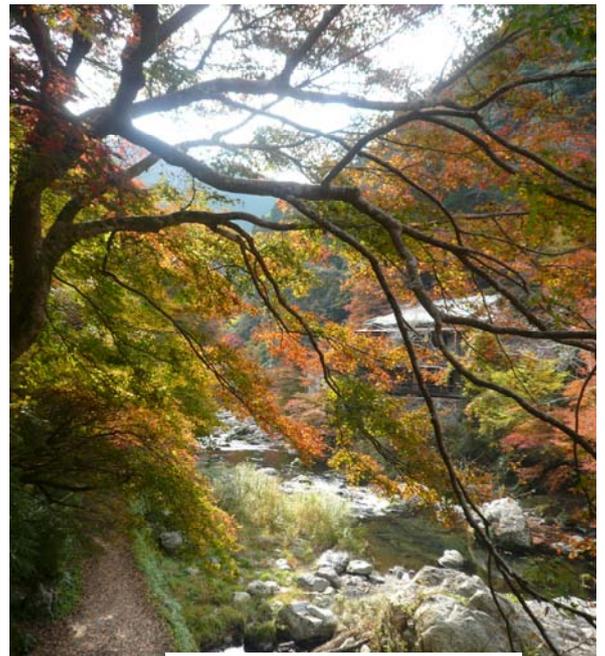
昔は愛宕山参詣の町として人並みが絶えなかった道筋であるが、今は小さな集落と京の静かな風情と料理を楽しむ古い料理旅館が川沿いに建ち並ぶ完全な隠れ里。静かな山郷の紅葉。

かつて数多くの人たちが愛でた紅葉が掛け値なしに美しい。

清滝のバス終点から清滝川へ降りて、紅葉の名所「清滝川の紅葉」を楽しむ。

「紅葉の清滝」でごった返していると想像していましたが、清滝川に沿ってカメラをかまえる数組や清滝川や愛宕山ハイクの人たちがそれも数組。最近はこちらまで足を伸ばす人は少ないのか 喧騒に邪魔されず ゆったりと紅葉見物ができる。

京都市街地の寺の建物と共存する紅葉も素晴らしいが、やっぱり紅葉は「山」「溪谷」全体を彩る景色が一番。



清滝川の紅葉 2008.11.15.

清滝川の橋を渡って、100mほど家並みが続く清滝の集落を抜けると小さな赤い鳥居が見えてくる。
ここが愛宕山へ登ってゆく参詣道の入口。鳥居をくぐらずに右手清滝川に沿って川を遡ると高雄への自動車道へ抜けてゆく。



「清滝」 西へ保津川に流れ下る清滝川 2008.11.15.

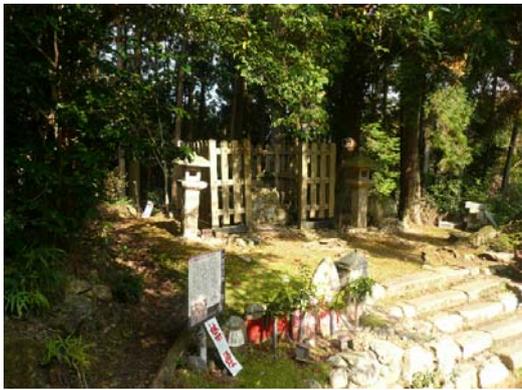


「清滝」の紅葉 2008.11.15.



清滝 愛宕神社をくぐって山へ続く愛宕山参詣道 2008.11.15.

清滝のバス終点から紅葉を眺めながら、清滝川の橋を渡って、100mほど家並みが続く清滝の集落を抜けると小さな赤い鳥居が見える愛宕山へ登ってゆく参詣道。鳥居をくぐらずに右手清滝川に沿って遡ると高雄への自動車道へ抜けてゆく。



「愛宕山 参詣道」 「愛宕山へお礼をもらいに行ってきた」と何度も聞いたことがあり、たいしたことがないと思っていましたが、そこは京都で一番高い山で昔からの霊山。

よく整備された階段状の山道が頂上まで続き、平坦になる巻き道が5合目周辺の一箇所のみで、ひたすら紅葉した階段状の山道を登るのできつい。

つづら折れの急な登りが5合目まで続くが、そのつづら折れの坂道ごとに名前とナンバリング標識がつけられ、また、昔からの参詣道の丁石やお地藏様が建てられ位置がわかるようになっている。



清滝から続く愛宕山参詣道 延々と階段状の山道が頂上へ 2008. 11. 15.

7月31日から8月1日にかけての愛宕神社 千日詣のお祭りの時には この参詣道全体に頂上までかがり火が焚かれて足元を照らし、今は静かなこの参道も参詣の人で埋め尽くされるという。延々と階段状に続く参詣道の角々に丁石があり、頂上まで40丁 また 一つ一つ登る坂にも新しい番号標識がつけられ、頂上まで50番。 ところどころに休憩所もある。

お年よりは休み休みでしょうが、さすがに昔からの参詣道 よく整備されている。

「これは帰りの膝が大変だ」と思いながらも、真っ赤に色づいた紅葉と真っ直ぐに伸びた杉林を眺めながらの森に包まれた登り。 周りの景色に目を奪われながらの楽しい森歩きでした。

また、土曜日の参詣道なので、小さな子供連れから、 お年寄りまで、「頑張って」とみんな声をかけながらすれ違ってゆく。通常の登山道とはちょっと違う参詣道ならではの和やかさである。



5合目周辺 やっと葛折れの山道から杉林の山腹の巻き道が7合目へと続く



山腹をまきながら斜面を登ってゆくと7合目 ぱっと左手に視界が開け、山肌を埋める錦を眺めながらの休憩

7合目から方向を北にとり、坂道を登り、また、山中の急な登りを登ってゆくとまもなく黒い門構えの中へと道が続く。

愛宕神社の境内に入るとだんだん傾斜もゆるやかになり、真っ赤に色づいた林の中に両側に石灯笼が建ち並ぶ参道が奥へと続き、愛宕山の頂上部にはいる。

森全体が真っ赤に紅葉していて、まっすぐに立つ杉の並木・建ち並ぶ灯笼が落ち着いた山の紅葉を演出して素晴らしい。



愛宕神社の黒門を抜けるとまもなく愛宕山の頂上部 愛宕神社の境内の森が広がる

2. 愛宕山山頂 愛宕神社周辺で



真っ赤に紅葉した愛宕神社 境内 2008. 11. 15.

頂上部は黒門からほぼ北へ延びる平坦な尾根筋で、一番北の端の一段高い高台に社殿のある頂上で尾根筋全体が真っ赤な紅葉に包まれた愛宕神社の参道が続く森で展望は聞かない。そして 尾根筋の一番奥の急な石段を登ると愛宕神社の本殿である。

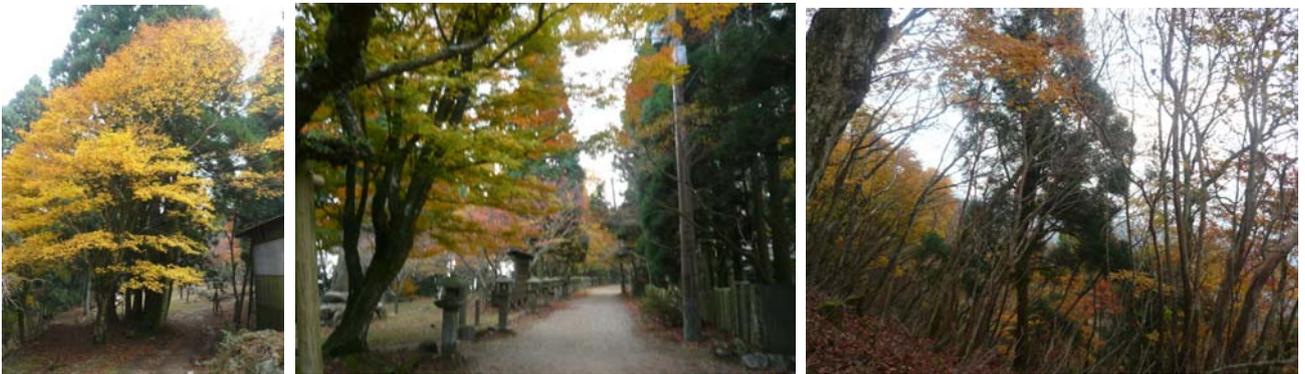
標高約 100m ほどの清滝から標高 924m の愛宕山頂上まで約 2 時間半 立ち止まっては紅葉の写真を撮りながらの紅葉満喫の楽しい森歩きでした。



愛宕神社 本殿 この社殿のある神域が愛宕山の山頂である

紅葉の参道を抜けると正面に延々と続く本殿への石段が続き その奥に本殿がありました

「本殿は京の町に向いていないのか?」とあきながら錯覚していましたが、本殿は南・京都を向いていました

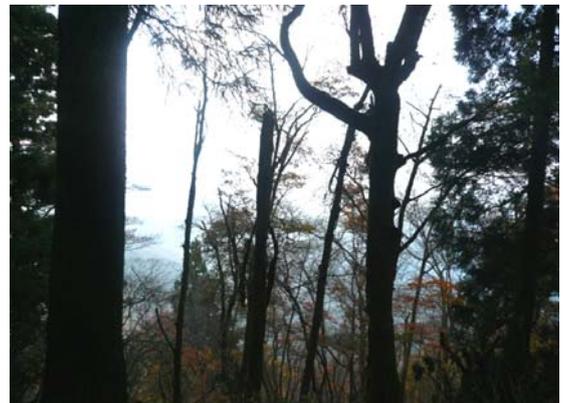


愛宕山山頂部 愛宕神社参道周辺 2008.11.15.

愛宕神社に参った後は、あの「灯り」の位置を探そう。

本殿の位置からは森に囲まれ奥まっているので、市街地の展望が得られないので、下からは灯りが見えないかもしれない。頂上部の参道からも難しい。

愛宕神社で聞くとこの社殿を出て、石段の下から右手奥へ回れば、白髭社があり、その下から京都市内が一望できるので、その位置だろうという。



山頂部は愛宕神社の森に包まれて あまり視界が効かない



山頂部の東端 社殿の直ぐ下側の道を東へ回りこむと視界がぱっとひらけ、眼下に京都市街地が遠望できた



社殿を出て石段のところから北奥へ社殿の下の山腹を回り込むと急傾斜の斜面に赤い鳥居があり、下は深い谷になっていて、社の下を石段下から社殿のある頂上東斜面を巻く稜線の道が北へ続いている。

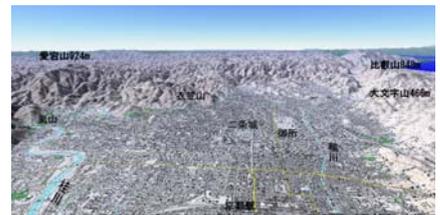
この道の東側は愛宕山頂上から南の清滝側へ広がる谷で、参詣道はこの谷の西側の尾根筋を登ってきたことと判る。また、この巻き道の直ぐ右手石段下の横から下へ、南の谷の東側を月輪寺から清滝への急な尾根道が伸びている。

社殿の石段下から白髭社を経て北へ伸びる稜線道(月輪寺道の分岐)

白髭社の下からこの稜線の巻き道を北へ少し進むと東南側がぱっと開け、眼下に京都市街地のパノラマが遠望できる。京都市街地が一望でき、後ろには愛宕山の社殿の森が上にある。

かすんではいるが、京都市街地が遠くまで見えていて、位置的にも合っている。ここが愛宕山の灯の見通し筋だろう。周りに明かりがつかく建物は上の社殿しかないので、やっぱり 夜 愛宕山に見える明かりは 社殿の明かりで、この地が京都市街地から夜空に愛宕山の灯を見通す筋だと思われる。

地図を出して位置を確認するが、これで 頭の隅にあつた課題も解消である。



愛宕山稜線道より南東側 京都市街地遠望 2008. 11. 15.

夜 京都を離れて大阪に向かうと 京都の街の西の端 真っ暗な西南 愛宕山に まるで 見送ってくれているかのように ぽつりとひとつ 明かりが見える この位置が、夜 愛宕山の灯が見える見通し筋に違いない

3. 帰りは愛宕山の東尾根筋 月輪寺道を清滝へ

3時を廻ると日差しも弱くなってきた。出発が遅かったので、頂上部でぐずぐずしていると日が暮れてしまう。

西の保津川や北の地蔵峠から高雄へ抜ける道もあるが、今日はそのまま清滝へ戻るのですが、階段状の参詣道を引き返すのを避けて、下りで約2時間ちょっと少し長くなるが、参詣道が続く尾根と谷を挟んで北側にある月輪寺から清滝へ下る。

なんとか日没までには清滝へ降りれるだろう。3時20分月輪寺道の分岐から下へ下りだす。

階段ではありませんが、やはりきつい下り道。下り始めて直ぐのところ大きな岩がゴロゴロ転がっている。磐座かも知れぬ。

この山がかつて、霊山 修験の山だった名残を始めてみたような気がする。



月輪寺から清滝への下山路入口 2008. 11. 15.

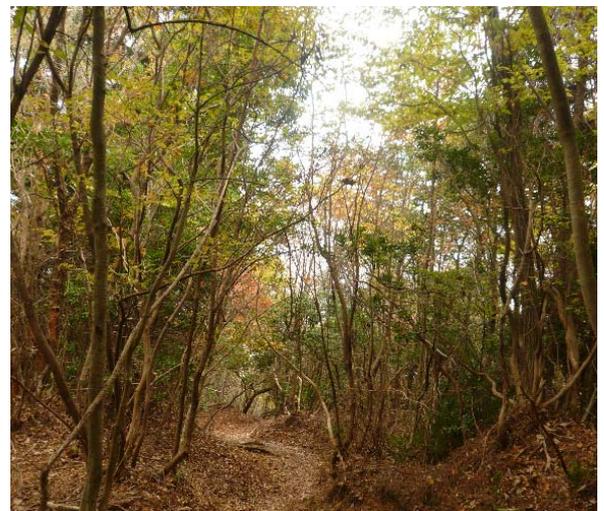
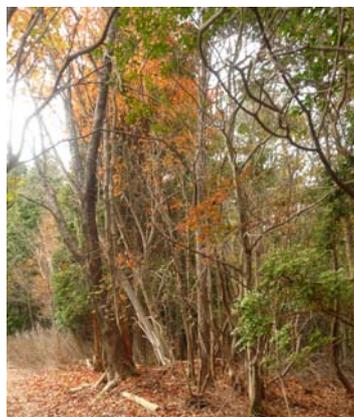


頂上の直ぐ下の尾根筋道の崖にゴロゴロ大きな石が転がっていた 2008. 11. 15.

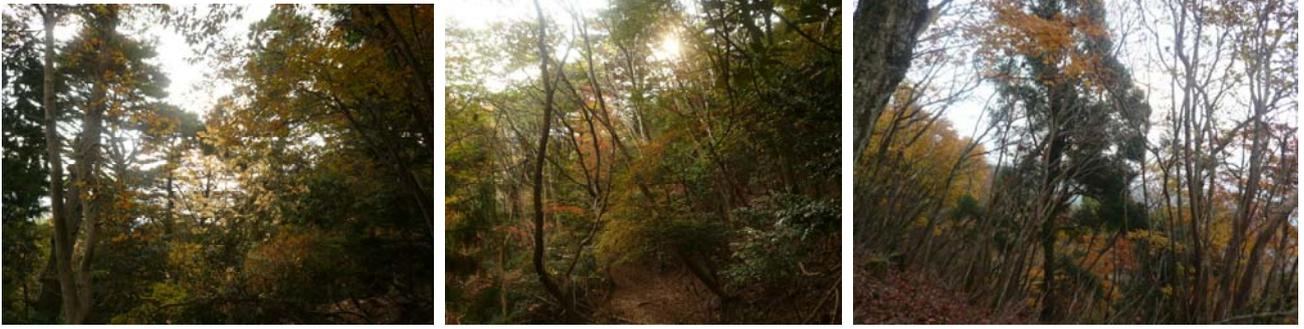
こちらの尾根筋道も山の紅葉が美しく ちょうど夕暮れの光に紅葉が浮び上って 色の変化が素晴らしい。

参詣道に比べて時間が長くかかるためか、もう 誰もこの道を下ってこない。

わずかに大学生のグループが超スピードで駆け抜けていったのと、外人グループがゆっくり下っているのを追い抜いたのみ。「あんまりゆっくりしていると日が暮れるよ」と声をかけて先に進む。

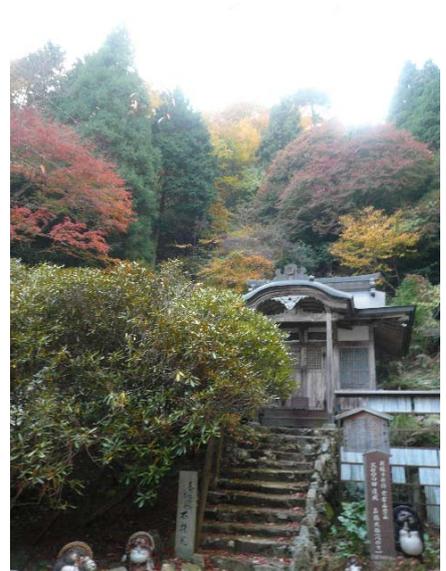


月輪寺道も尾根筋 林の中で展望が開けないが、表参詣道より、雑木が多く紅葉の変化が美しい 2008. 11. 15.



清滝への尾根筋の下山路 月輪寺道 2008. 11. 15.

30分ほどで下って、そのまま尾根筋を下って空也滝から清滝へ出る道と月輪寺へ回ってから清滝へ下る道との分岐。月輪寺への道を取るとまもなく山の斜面にへばり付いた無人の月輪寺。夕暮れの光に紅葉した木々が美しい。また、ここは枝谷の最奥部になっていて、谷筋の紅葉した山々が見通せ、その先には遠く市街地がかすんで見える。地図をみると真南清滝から嵯峨野の方向である。まだ だいぶ下らないと清滝に行き着かぬ。



月輪寺周辺 2008. 11. 15.

月輪寺を経て清滝川沿いのドライブウェイに出たときには谷筋はもう夕闇の中。

薄明かりの中を清滝への道を急ぐ。5時過ぎに清滝へついたときには とっぷりと日も暮れていました。



清滝川沿いのドライブウェイに下った時はもう 夕闇 2008. 11. 15.

深山ではありませんが、愛宕山の神域として守り継がれてきたためなのでしょうが、京都の街からすぐそばに市街地と隔絶してドライブウェイ一本通っていない静かな明るい山があり、素晴らしい紅葉が登山道全体を覆っていました。久しぶりの京都の紅葉を楽しみながらのWalk。 やっぱり 紅葉は全山紅葉の山が良い。

標高約 100m の清滝から標高 924m の愛宕山頂上まで標高差約 800m 水平距離約 4.5Km 平均勾配約 18/100 と記録を出してみると「愛宕山」が霊山として信仰された山の姿が垣間見えました。

また、愛宕山の参詣道では 多くの方が声を 掛け合いながら登る和やかな市民の山でもあるとも感じました。いままで、いつも眺めるだけの山でしたが、こんなに近いところにいろんなバリエーションが楽しめる山があると今まで以上に親しみのある山になりました。

7月31日夜の愛宕山「千日詣」この日お参りすれば、千回お参りしたのと同じ役得があると聞き、かがり火が参道を照らし、愛宕山が一番にぎわう時と聞く。次に機会があれば、是非出かけてみたいと思っています。

また、清流の清滝川・保津川と緑の森 新緑の季節も静かな山歩きができそう。お勧めの市民ハイクの山です。ただし、下りに難のある方はその準備も怠りなく。真っ暗な清滝駐車場で 出発待ちのバスの運転手さん そして 遠くから清滝へやってきた人たちと 今日一日の紅葉談義を楽しむ

今回の愛宕山 紅葉 Walk 登山道でみた愛宕山の紅葉写真アルバムをこのページの最後に添付。
いつもの事ながら ピントの甘い写真ばかりですが、もう一度 愛宕山の素晴らしい紅葉を

清滝は交通の便が悪い深山の中とと思ってきましたが、夜遅くまで路線バスが走り、細いトンネルを抜けると 15分で喧騒の嵐山・京の街。イメージの違いにもびっくり。要は清滝川沿いの広い駐車場がない狭い谷間でしかも交互通行しかできぬ狭いトンネルしかないことが、喧騒を阻んでいるようだ。この不便さが、美しい景色・静かな環境を今も残しているとしたら、部外者の言い分かも知れないが、この程度の不便さは受け入れねば・・・と。

バスがトンネルを抜けるともう喧騒の世界。 この喧騒にもちょっぴり 参加したいと。嵐山でバスを降りて、繁華街状態の渡月橋を渡って 阪急の嵐山駅へ

ふっと 遊び心で 思いついた「愛宕山 紅葉Walk」でしたが、素晴らしい京都の山紅葉とWalk 夜 JRや新幹線の車窓から京都の北西の端 真っ暗な空にうっすらと山のシルエットの中 ポツンとひとつだけ 瞬かぬ星が見えたらそれが愛宕山 お勧めの市民ハイクの山です。

2008. 11. 15. 夜 阪急電車で揺られながら
Mutsu Nakanishi



愛宕山 walk 行動表 清滝→表参詣道→頂上・愛宕神社→月輪道→清滝 GPS記録より

京都 愛宕山 紅葉 写真アルバム

2008. 11. 15.

清滝→表参詣道→頂上・愛宕神社→月輪道→清滝



「清滝」 西へ保津川に流れ下る清滝川

2008.11.15.

【 清滝川が狭い谷間を流れ下る愛宕山参詣道の起点 清滝 】



京都「清滝」で

2008.11.15.



京都「清滝」で

2008.11.15.

【 急な階段状の参道が続くが、素晴らしい紅葉のトンネル 愛宕山表参詣道 】



京都・愛宕山 愛宕神社 表参道で 2008.11.15.



京都・愛宕山 愛宕神社 表参道で 2008.11.15.

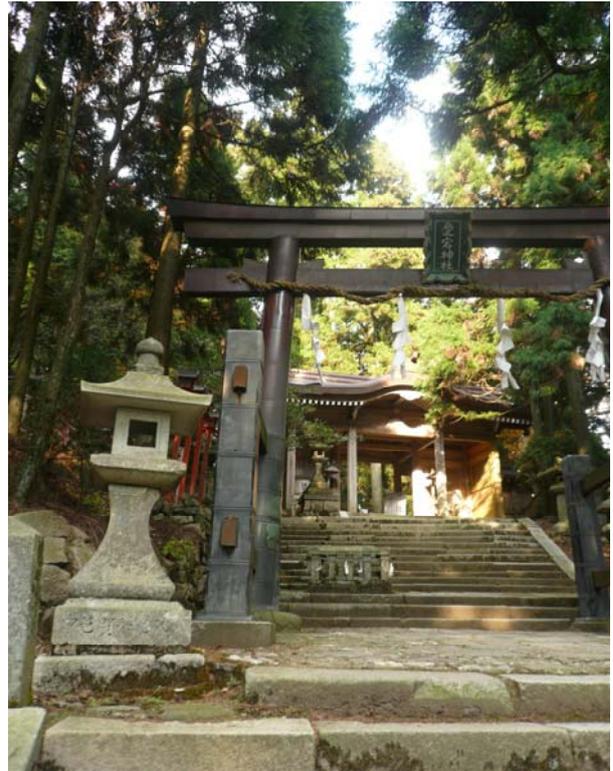
【 愛宕山の頂上は 愛宕神社の境内 静かな森の中 ゆったりしたwalkを楽しむ 】



京都・愛宕山 山頂・愛宕神社境内で 2008.11.15.



京都・愛宕山 山頂・愛宕神社境内で 2008.11.15.



京都・愛宕山 山頂・愛宕神社 本殿 2008.11.15.

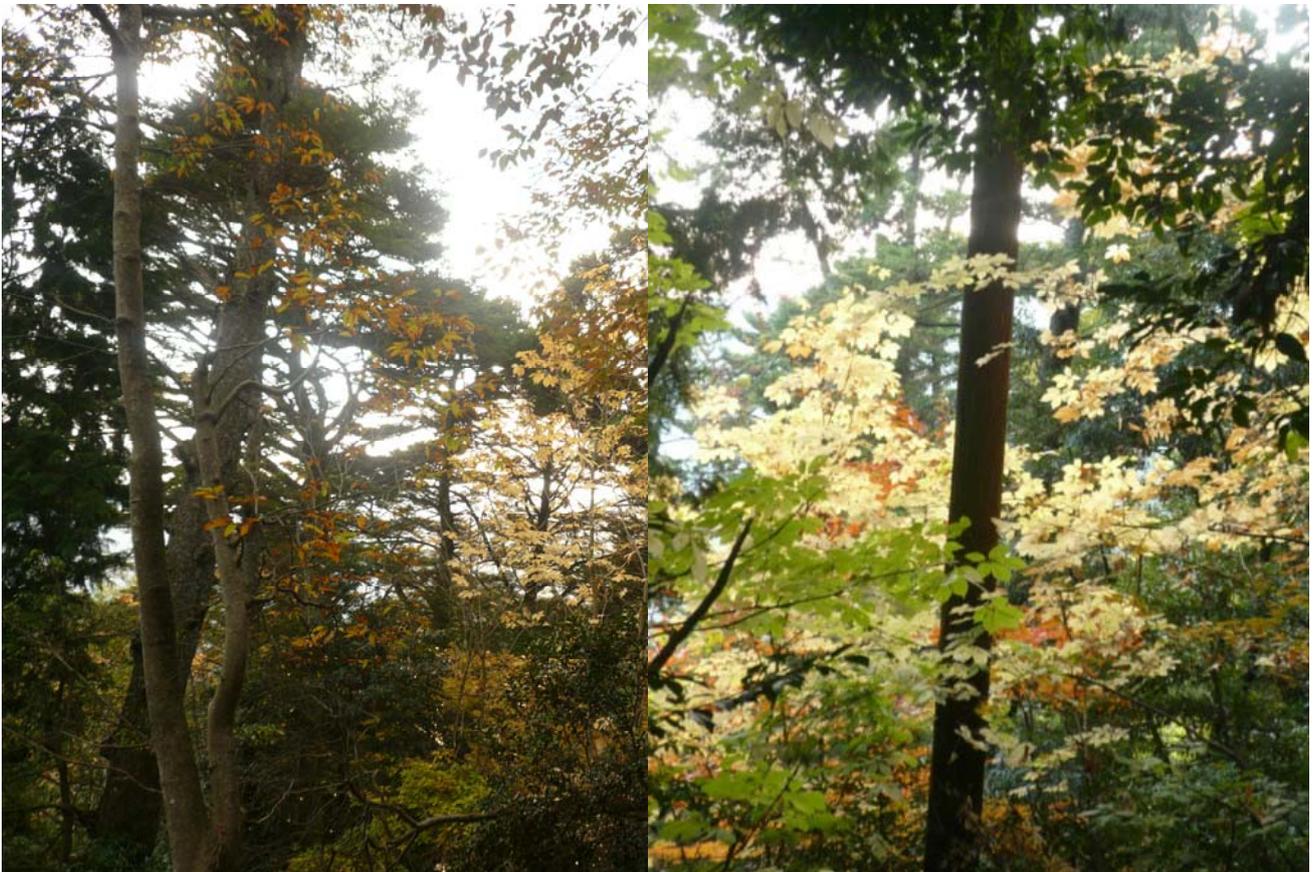


京都・愛宕山 山頂・愛宕神社 本殿周辺で 2008.11.15.

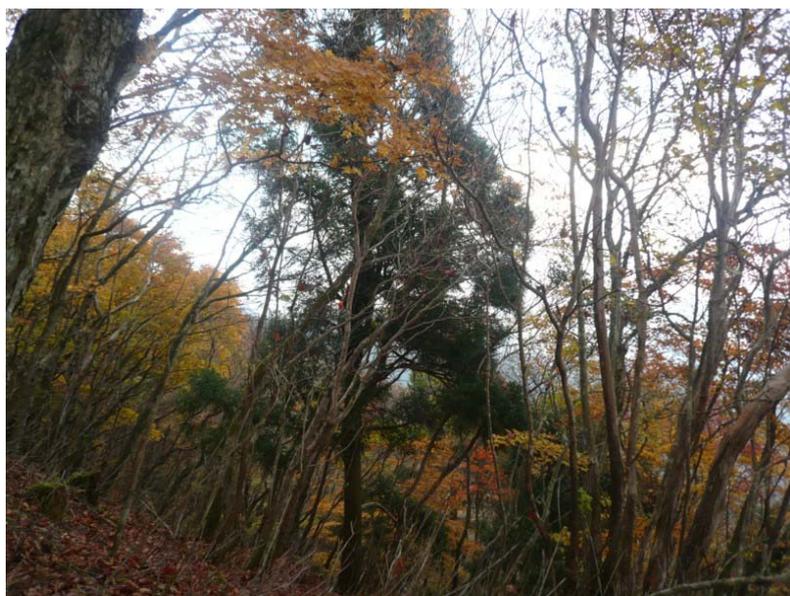
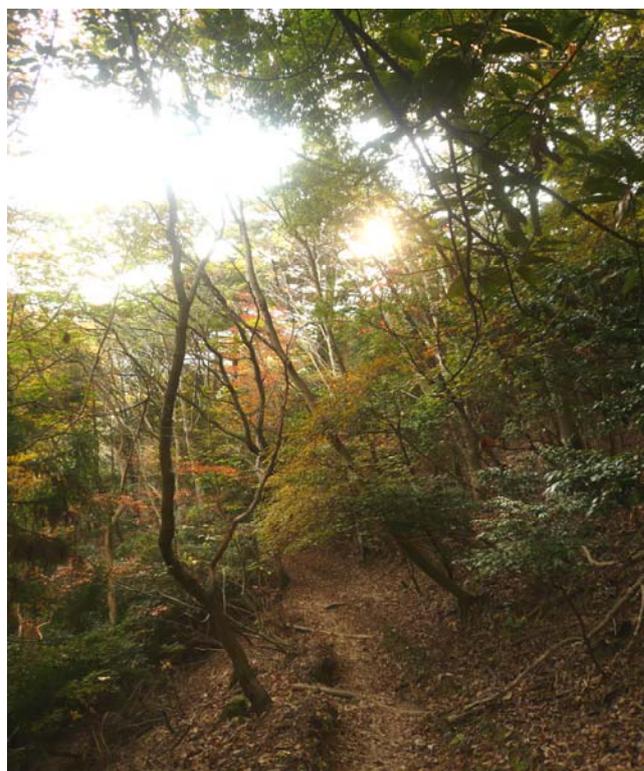
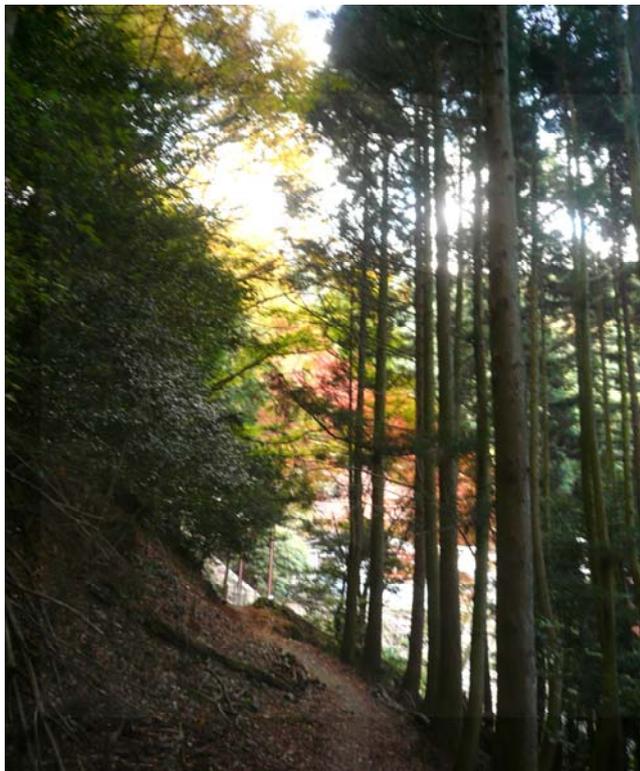
【 帰りは月輪寺道 月輪寺から清滝への尾根筋を下る 】



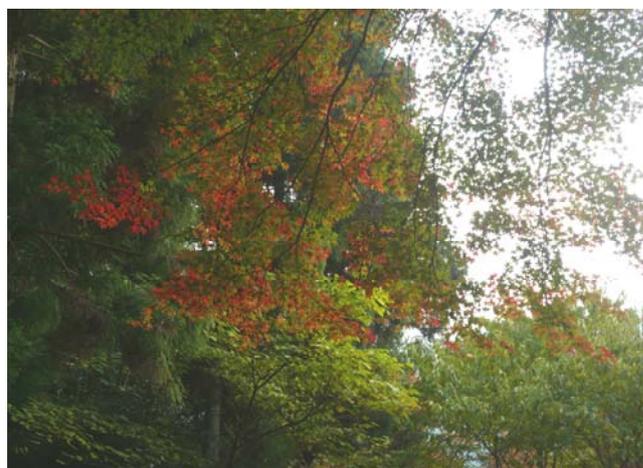
京都・愛宕山 月輪寺への下山道 本殿の直ぐ下の崖で 餐座? 2008.11.15.



京都・愛宕山 月輪寺への下山道で 2008.11.15.



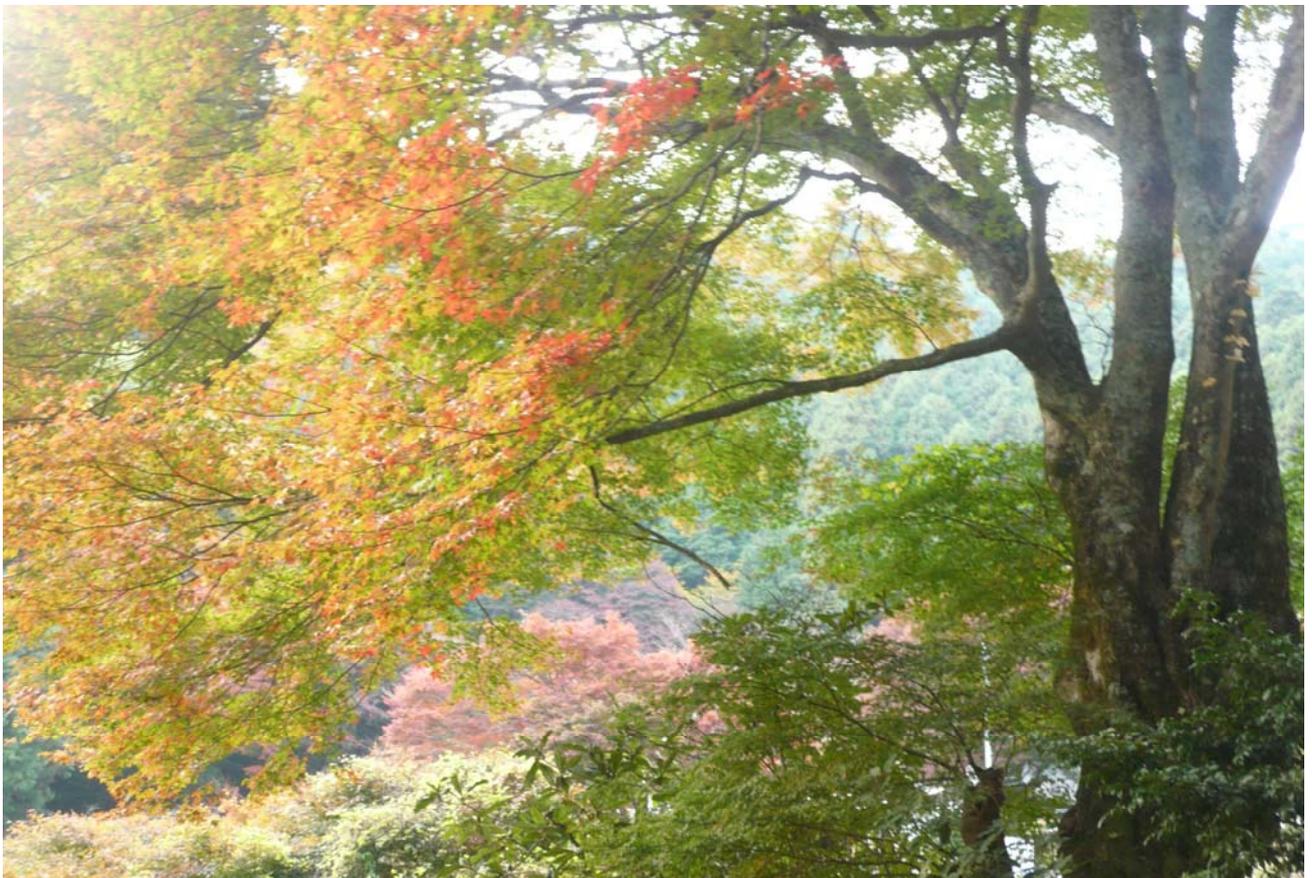
京都・愛宕山 月輪寺への下山道で 2008.11.15.



月輪寺周辺で 京都・愛宕山 下山道 2008.11.15.



月輪寺周辺で 京都・愛宕山 下山道 2008.11.15.



月輪寺周辺で 京都・愛宕山 下山道 2008.11.15.